

6月22日(日)

14時～16時 場所／立命館大学衣笠キャンパス

テーマ「記録」

立命館ラララ哲学カフェ

テーマ「記録」

三日坊主で続かないことの代表と言えば、日記ですよね。日記は生活の記録ですが、何を書いたらよいのかわからなくて、筆が進まなくなることも少なくないでしょう。それでも、あとで読み返してみると、当時は大して重要だと思っていなかったことに、はっとさせられることもあるから、不思議です。

その一方で、スマートフォンやスマートウォッチなどによって、生活の「ログ」を取ることは簡単になっています。ログを取るのはこんなに楽なのに、なんで日記をつけることはこんなに難しいのでしょうか。そもそも、この二つの間にはどんな違いがあるのでしょうか。

そんなふとした疑問について言葉を交わせる機会が、私たちの社会からはどんどんなくなっているように思います。哲学カフェは、そうした流れに抗って、私たちのささやかな問いを大切に、対話する空間を創り出そうとする試みです。

私たちはなぜ記録を残すのか、私たちにとって記録とは何なのか、そして、社会にとっての記録とは何を意味するのか——そんなことを、みなさんと考えていきたいと思います。

あなたの考えを聞かせてください。

哲学カフェとは？

その場に集まった参加者が、特定のテーマについて自由に語り合う、対話型ワークショップです。哲学を含めて学問的な専門知識は必要なく、どなたでもご参加いただけます。「当たり前」と思われているモノやコトについて、新しい気付きや問いを得られること——それが哲学カフェのゴールです。

●ファシリテーター

戸谷洋志・とやひろし

立命館大学大学院先端総合学術研究科准教授

1988年東京都生まれ。法政大学文学部哲学科卒業後、大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。専門は哲学・倫理学。ドイツ現代思想研究に起点を置いて、社会におけるテクノロジーをめぐる倫理のあり方を探求する傍ら、「哲学カフェ」の実践などを通じて、社会に開かれた対話の場を提案している。最近凝っているのは味噌汁づくり。



●企画

後藤基行・ごとうもとゆき

立命館大学RARAアソシエイトフェロー／立命館大学大学院先端総合学術研究科准教授／立命館大学生存学研究所副所長

病気や障害などの命や健康、尊厳に関わる史資料（アーカイブズ）を集め、必要とするひとがそこに容易にアクセスできるよう、当事者や市民らとともにガイドラインをつくって、オープンデータ化する研究活動を行なっています。その一環として、市民との対話の場「哲学カフェ」をひらくことにしました。アーカイブズに限らず、さまざまな人文知の重要性がひろく認識されているとはいいがたい状況のなか、どのようにすれば意義や価値を伝えられるのか。私自身も考える機会にしたいと思います。



参加申し込み

●日時

2025年6月22日（日）14時～16時

●場所

立命館大学衣笠キャンパス
創思館2階 社会臨床実習室1
（京都市北区等持院北町56-1）
正門入ってすぐ右、図書館隣の建物です。

●定員

15名程度（先着順）

●参加申し込み先

<https://rararits250622.peatix.com/>



配慮や調整が必要な方は事前にお問い合わせください。可能な限り対応いたします。手話通訳をご希望の場合は6月10日（火）までにご連絡ください。

●問い合わせ先

立命館大学研究部RARAオフィス
rararits@st.ritsumei.ac.jp

立命館ラララ哲学カフェ

●主催／立命館先進研究アカデミー（RARA）…立命館大学の先導的・先進的研究拠点の形成に向けて、リーダーシップを発揮することが期待される中核研究者の集まり（アカデミー）です。

●共催／立命館大学生存学研究所 ●後援／立命館大学人間科学研究所

RARA